

## 東村複合型 SS 整備事業 概要書（沖縄県 東村）

### 1 経緯

東村においては、村内唯一の民間 SS が令和 5 年 6 月末に閉店し、市町村内に SS が 1 店舗も存在しない全国で 9 番目の自治体となった。閉店後は、最寄り SS まで片道 8~22km を要する状況となり、村民生活、農業、事業活動に多大な負担が生じたほか、災害時における燃料供給拠点が村内に存在しないという防災上の課題が顕在化した。

この状況を踏まえ、東村では令和 5 年度に「東村 SS 過疎地対策計画」を策定し、村民アンケート結果および将来需要予測に基づき、燃料供給体制の確保に向けた方策を検討した。その結果、村中心部である平良地区において、公設民営方式による複合型 SS 施設を整備する方針を決定し、国の補助金を活用して整備工事を実施したものである。整備工事は令和 8 年 2 月に完了し、同年 4 月から指定管理者による運営を開始する予定である。

### 2 主な取組内容および成果

#### (1) 整備内容

整備場所は村中心部の平良地区であり、村役場や商店等に近接し、村民および事業者が利用しやすい立地条件を有している。将来的には商店等との複合拠点化を視野に入れ、地域の利便性向上および運営効率化を図ることとしている。

- 所在地：東村字平良 550-2（村有地）
- 敷地面積：1,326.46 m<sup>2</sup>
- 整備面積：161.34 m<sup>2</sup>
- 整備設備：管理棟、キャノピー、油水分離槽、舗装等
- 給油設備：ガソリン地下タンク 34KL、軽油地下タンク 2KL、計量機（ガソリン・軽油対応）
- 営業形態：セルフサービス
- 運営方式：公設民営方式
- 利用想定量：ガソリン 51.7KL/月、軽油 4.2KL/月

村民・事業者を対象とした利用意向調査では 92%が村内 SS の必要性を回答しており、本施設の整備により地域の燃料供給体制が大幅に改善されることが見込まれる。

#### (2) 需要の確保

村民および事業者の多くが「近隣 SS と同程度の価格であれば利用する」と回答しており、整備後は村内需要の確保が期待される。また、携行缶販売や掛売対応等、地域の実情に応じたサービスを提供することで利用促進を図ることとしている。さらに、村中心部での整備により、これまで村外で給油していた利用者の村内回帰が見込まれ、地域内における燃料供給の安定化が期待される。

#### (3) 災害対応

本施設の整備により、村内に燃料備蓄が確保され、災害時の燃料供給体制が強化される。指定管理者と連携し、非常用発電機の稼働確認や防災訓練を継続的に実施することで、非常時における運営継続性を

確保する。また、公的機関との優先供給体制を構築することにより、避難所運営や緊急車両への燃料供給が円滑に行える体制を整備する。

#### (4) 担い手の確保

運営にあたっては、指定管理者が危険物取扱資格を有するスタッフを配置し、適切な管理体制を構築する。公設民営方式を採用することにより、村が施設整備費を負担し、民間事業者の経営負担を軽減する仕組みとした。これにより、持続可能な運営が可能となるほか、将来的な需要減少を見据え、他事業との兼務や複合拠点化を通じて効率的な人員配置を図る体制を整備する。

#### (5) 効果

本事業により、村民の移動負担が軽減され、特に高江区においては片道 8.2km・約 10 分の短縮効果が確認されている。村民および事業者の給油負担が大幅に軽減されることで生活利便性が向上し、農業・観光・物流等、地域産業を支える燃料供給基盤が確保される。また、商店等との複合拠点化により地域の回遊性が向上し、地域経済の活性化に寄与する。さらに、災害時には燃料供給拠点として機能し、防災力の強化につながる。

### 3 まとめ

本事業により、東村における燃料供給体制の空白が解消され、村民生活の安定、地域産業の維持、災害対応力の向上に寄与することが期待される。今後は、指定管理者と連携し、地域ニーズに応じたサービス提供および持続可能な運営体制の確立を図りつつ、村民にとって身近で安心できる SS として育成していく。

位置図



全景

